

『もりおかの短歌』冬の部

〈一般部門〉 優秀賞十首

ぶんがく かお
文学の香りを

きみ み まと
君は身に纏ひ

びしゃもんばし かざはな よ
毘沙門橋の風花を詠む

青森県弘前市 井上 裕太

ふゆ た
冬の田に

いいおかやま かこ
飯岡山は囲まれて

ちんざ ゆき おお
どっしり鎮座す雪に覆われ

盛岡市 岩館 公子

ついおく ふけ まどへ
追憶に耽る窓辺や

こずかた じょうしなが
不来方の城址眺める

ふゆ びょうしつ
冬の病室

青森県青森市 加藤 健一郎

濃紺のうこんの冬空凍る雪ふゆぞらこおの街ゆき まち

ホットワインに

星ほしが流ながれる

神奈川県横浜市 北見 美保

選ばれし行いきたい街まちの盛岡もりおかに

風情ふぜいを醸かもす

赤あかレンガ館かん

盛岡市 河野 康夫

鷺形わしがたの現あらはるる日ひを待まち兼かねて

既すでに求もとめし

向日葵ひまわりの種たね

青森県青森市 鈴木 操

本州ほんしゅうで一番寒いちばんさむい盛岡もりおかに

マフラー手てに持もち

劇場げきじょうを出でる

神奈川県藤沢市 長坂 珠美

こうえん ら かんによらい
公園の羅漢如來の

いの て
祈る手に

めしも ゆきふ つ
飯盛るごとく雪降り積もる

盛岡市 西川 政勝

とし せ
年の瀬の

みこ だ あさいちひとざか
神子田朝市人盛り

う か こえぬく し
売り買いの声温もり染みる

盛岡市 三澤 信裕

ひと あこが いだ おも で
あの人の憧れ抱き思い出の

たく ぼく おい
啄木追し

もり おか まち
盛岡の町

山口県周南市 山根 洋子

『もりおかの短歌』秋の部

〈ジュニア部門〉 優秀賞

(応募時、中学生以下に限る)

該当なし

【講評】

選歌葉書を見ると「冬の部」は、ほとんどが雪や寒さや春待つ心が詠まれている。冬の光景は短歌の素材になる詩情があるのだ。季節にはそれなりの素材があると思うが、冬は特別かも知れない。春を待つ心は詩人を作る。誰にでも可能性があるのだ。逆に夏を詠むのは難しいかも知れない。旅行先を盛岡にされた方々は記憶に遺るだろうが、短歌を作ること思い出になるだろう。誰にでも詩人の素質はあるのだ。一步踏み出していたいただいたことが、私はとてもうれしく思われてならない。

令和六年三月選 冬の部

投稿数 七十三 首

選者 赤澤 篤司